

●発行日：2016年7月16日（土）

〒661-0035 兵庫県尼崎市武庫之荘3-19-3 TEL 06-4962-5876 FAX 06-4962-5877 e-mail info@gakurin.co.jp

||||| 発行:教材出版 学林舎



学習現場の行き先 加速化する学校と塾の連携

文 部科学省は、2013 年 11 月に学校教育法施行規則を改正し、学校と地域や企業などが連携して行う土曜日の教育活動を推進しました。これにより、全国で公立の学校と学習塾の連携が加速しています。現在では、学習塾に要請して、放課後や土曜日に任意参加の補習を行う学校が多いようですが、児童や生徒全員が受ける日々の授業に、学習塾の教材や指導を取り入れる学校も出てきているようです。

□学校が学習塾と連携する理由

ゆとり教育によって、学習塾に通っている子どもと通っていない子どもとの間に学力の格差が生まれました。2007 年から実施されている全国学力・学習状況調査で学力の二極化が顕著に現れ、学力の底上げを求められた自治体が、学習塾との連携をはかる動きを見せ始めました。学力の二極化は経済格差も関係しており、経済的な理由で学習塾に通うことができない子どもにも学習の機会を同じように与えることで、学力の向上をはかろうとしています。

また、保護者から学力向上への強い要望があっても学校の教員は業務量が多く補習授業まで面倒を見ることができないという問題がありました。それを解消する策として、学習塾と連携して補習授業を行う動きが見られるようになりました。

□学校と学習塾の連携事例

・大阪府大東市では、2010 年から公益社団法人全国学習塾協会と連携して「学力向上ゼミ」という授業を行っています。毎週土曜日に、協会に所属している学習

塾から派遣された講師が、小学 4 年生～ 6 年生には算数の授業を、中学 1 年生～ 3 年生には数学と英語の授業を、いずれも希望者を対象に行っています。運営費は市が補助しており、小学生は月に 1000 円、中学生は月に 2000 円と、学習塾に通うよりも安い金額で授業を受けることができます。生活保護などを受けている場合は全額免除となっており、経済的な理由で学習塾に通うことができない子どもにも学習の機会を与えています。

・佐賀県武雄市では、2015 年から花まる学習会（幼児から小学生を対象とした学習塾）と連携して、小学生を対象に始業前の 15 分間に「花まるタイム」という取り組みを行っています。花まるタイムとは毎週月曜日・火曜日・木曜日・金曜日に、担任の先生が音読、ブロック、計算、書写など 4 種類の塾教材を使って行うモジュール授業で、学習の基礎を反復する時間です。花まるタイムの特徴は、全員が問題を解き終わるまでは待たず、テンポとリズムを重視して授業を行うことです。花まるタイムは学力向上ゼミとは異なり、児童全員が対象になっています。

学校と学習塾が連携することによって、学校では省略してしまう学習内容もしっかり教えることができ、学習塾が学校の学習を補完することができます。また、学習塾の行う授業は、無償または廉価なものが多く、経済格差による学力の二極化を解消するという利点もあります。しかし、専門家の間では、学習塾が学校の指導にふみこみすぎないよう、学校側が主体性を保つ必要があるという意見も出ています。また、都市部と地方では学習塾の数が大きく異なるため、地域による格差は拡大していくのではないかという懸念の声もあります。学習塾側には、学校側の指導方針と齟齬が出ないように、うまく調整していくことが求められています。（文／学林舎編集部）

学習教育の行き先 学校で行われている 道徳教育とは!?

2015 年 3 月、文部科学省は学習指導要領の一部を改正し、これまで教科外活動だった道徳を「道徳科」として、数値評価を行わない「特別の教科」に格上げしました。小学校では 2018 年度から、中学校では 2019 年度から検定教科書を導入し、教科書に基づいた道徳の授業が完全実施されます。ここでは、これからの道徳教育を分析・総括します。

「特別の教科 道徳」は「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方（人間としての生き方）についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」ことを目標としました。目標を達成するための内容項目は、従来通り 4 つの視点から構成されていますが、児童・生徒の発達の段階や環境の変化に合わせて一部順序を改めるなど、それぞれ細かな改善が図られています。

・指導内容の 4 つの視点

□「A 主として自分自身に関すること」

自己の在り方を自分自身との関わりで捉え、望ましい自己の形成を図ることに關するものです。自律的に判断し、責任のある行動をする〔自由と責任〕、安全に気をつけ、よく考えて行動し、節度ある生活をする〔節度、節制〕、自分の特徴に気づき、短所を改め長所を伸ばす〔個性の伸長〕、より高い目標を立て、努力して物事をやり抜く〔努力と強い意志〕（中学校では加えて向上心、真理の探究、創造等）を扱います。

□「B 主として人との関わりに関すること」

自己を人との関わりにおいて捉え、望ましい人間関係の構築を図ることに關するものです。身近にいる人への〔思いやり〕、家族など生活を支えてくれている人々への〔感謝〕、時と場合に応じた適切な行動をとる〔礼儀〕、異性についても理解しながら、人間関係を築いていく〔友情〕、自分の考えや意見を相手に伝え、自分と異なる意見や立場を尊重する〔相互理解〕等を扱います。

□「C 主として集団や社会との関わりに関すること」

自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会との関わりにおいて捉え、国際社会と向き合うことが求められている我が国に生きる日本人としての自覚をもち、国家および社会の形成者として必要な道徳性を養うことに關するものです。法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守る〔規則の尊重〕、誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努める〔社会正義〕、働くことや、その意義を理解し、公共のために役に立つ〔勤労、公共の精神〕、家族の一員として進んで家族の役に立つ〔家族愛〕、協力し合って楽しい学級や学校をつくる〔集団生活の充実〕、我が国や郷土の伝統と文化を大切に、国や郷土を愛する心をもつ〔伝統と文化の尊重〕、他国の人々や文化について理解する〔国際理解〕（中学校では加えて遵法精神、社会参画等）を扱います。

□「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」

自己を生命や自然、美しいもの、気高いもの、崇高なものとの関わりにおいて捉え、人間としての自覚を深めることに關するものです。生命がかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重する〔生命の尊さ〕、自然の崇高さを感じ取り、自然や動植物を大切に〔自然愛護〕、美しいものや気高いものに感動する心をもつ〔感動、畏敬の念〕、よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる〔よりよく生きる喜び〕等を扱います。

・「考え、議論する」授業へ

「心のノート」を全面改訂した新教材「私たちの道徳」は、伝統文化や、「日本人としての自覚」を深めるテーマ、いじめ問題への対応、社会貢献、情報モラルなどの題材が重点的に盛り込まれています。その他、歴史上の偉人の伝記や名言だけでなく、近年活躍した人物やスポーツ選手らのエピソードも数多く紹介され、内容の充実が図られています。学力だけでなく、豊かな人間性を育て「考え、議論する」道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものとされています。全教育課程の中で、児童・生徒の道徳性を養うだけでなく、形式的な授業から実践的な授業へと、道徳教育の質的向上が期待されます。（文／学林舎編集部）



学習教育の行き先 留学の意味と価値

近 年、様々な分野でグローバル化が進んできています。それに合わせて日本でも、政府や民間企業の主導のもと、世界を舞台に活躍する人材の育成を目指して多種多様な取り組み・支援がされています。その一つが、日本から海外への留学促進です。しかし、2004 年の約 8.3 万人をピークに、日本からの海外留学生は年々減少しています。なぜ、このようなことが起きているのでしょうか。

日本の国立大学を対象に実施された留学制度に関するアンケートによると、大学生が留学をためらう要因として一番大きなものは、「帰国後、留年する可能性が大きい」という、進路についての不安でした。次いで、経済的な不安、「大学全体としてのバックアップの不備」などの大学の体制への不安が見られました。さらに、文部科学省が実施した、高等学校等の国際交流に関する調査によると、留学したいと考えている高校生の割合は全体の約 42% で、残りの、留学したくないと考えている高校生の不安要素として、「言葉の壁」が挙げられていました。

このような現状を受けて、各機関で新たな取り組みが行われています。文部科学省は、2020 年までに日本からの海外留学生を倍増させることを目指す「第2期教育振興基本計画」を掲げています。留学生の経済的負担を軽減するための寄付促進や、就職・採用活動開始時期を変更し、留学しやすい環境を整備する、といった内容のものです。さらに具体的な対策として、文部科学省は「トビタテ！留学 JAPAN」という留学促進キャンペーンを開始しました。その中で、2020 年までに約 1 万人の高校生、大学生を派遣留学生として送り出す計画「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～」を発表しています。この計画では、手厚い奨学金が用意されており、留学への不安要素の一つである経済的不安を解消するものになっています。また、留学前の研修が充実しているので、「言葉の壁」などの不安も緩和されると考えられます。

ところで、実際に留学を経験した学生たちは、どのような意義を見出しているのでしょうか。留学を決めたきっかけは各々異なるものの、「日本にいたままでは出会えない人に会えた」、「日本では気づかなかった海外との違いを知ることができた」など、新しい経験・発見ができたという意見がありました。また、留学生活で「積極性、ものごとを自力で解決する力を身につけられた」という意見もありました。これらのことから、留学を経験した学生たちは、大きな留学の成果を得ていることがわかります。

では、そのような学生たちを将来採用する、民間企業から見た留学の意義とは何でしょうか。経済産業省のアンケート調査によると、海外に拠点をもつ企業では、グローバル化を推進する国内人材の確保・育成が課題だと感じている割合が高いようです。これを受けて、留学から帰国した学生たちを時期に関係なく採用できる、新卒者の通年採用を実施している企業が増えています。また、海外で就職フェアや講演を開催し、日本人留学生の就職を支援する取り組みをしている企業もあります。民間企業側も、グローバル化に対応できる人材を求めており、その育成の一端となる留学を積極的に支援しているのです。

海外留学は、グローバル化が進む現代において、世界と対等に戦える力を有し、日本の成長を牽引する人物を育てる重要なツールの一つです。留学を通して、新しい出会いや気づきを得、未知のものにチャレンジしていく精神を身につけることで、これからの時代を生き抜く力の育成が求められています。

(文／学林舎編集部)

クロスロード crossroad

第 59 回 文／吉田 良治

夏休みの過ごし方

7月も中旬となり、まもなく梅雨明け、そして夏休みが始まります。夏の思い出という私はスポーツ（アメリカンフットボール）の練習が強く印象に残っています。近年地球温暖化の影響で、日本では毎年のように40度前後の猛暑日が続く、スポーツの現場だけでなく、一般の社会生活においても、熱中症の危険が高まっています。私が選手としてアメリカンフットボールをしていたころ、気温が高い日でも32～33℃くらいでしたから、今日その気温なら結構涼しく感じるかもしれません。それでも当時でも熱中症は起こりましたので、今日の状況でスポーツをすることは、最悪命を落とすことにつながります。スポーツ活動には十分な配慮が必要になります。

アメリカではスポーツ活動は通常シーズン制を採用しているため、時期によって活動できるスポーツが決まっています。春は陸上競技や野球、秋はサッカーやアメリカンフットボール、冬はバスケットボールやバレーボールです。夏に試合が行われるスポーツはないので、夏休み中は秋にシーズンを迎える競技の強化練習くらいになります。

アメリカでも地域によっては熱中症のリスクがあるため、練習時間などに制限を設け、体の負担を取り除くことが求められています。競技力を高めるために、厳しいトレーニングをすることが求められるトップアスリートであっても、例外なくこの規則を厳守することが求められます。また日本でいう合宿に当たるトレーニングキャンプも、私がワシントン大学でアシスタントコーチをしていたころ、日本同様1日2回練習が当た

り前でしたが、2000年代に入り熱中症の死亡事故が増え、1日2回練習を2日連続で行うことができなくなりました。NFLにいたってはキャンプで1日2回練習は禁止となっています。スポーツで強くなることと命を引き換えにしない！、ということです。

アメリカでとてもユニークな取り組みとして、夏休みの期間に子どもを預かり、子どもにスポーツを指導する取り組みがあります。競技力を高めることを目的とせず、むしろライフスキルやスポーツマンシップが育まれることをベースにプログラムを組み立てています。アメリカでは一般的に子どもが一人になると親が責任を問われます。家の中であっても子ども一人でいることは親の罪となります。子どもが夏休みでも、親は平日なら仕事をしなければいけない場合、夏休みの時期1日子どもを預かってくれるプログラムを探し、子どもたちをプログラムに参加させます。特に人気があるのはスポーツプログラムで、ライフスキルやスポーツマンシップを身につけることに主眼が置かれているものは、親、そして子供に大変好評です。

人種差別や暴力、そして殺人事件が絶えないアメリカにおいて、子どもがスポーツを通じて正しい生き方を学ぶ機会を得ること、心身ともに健全な成長につなげていくことをスポーツ界が支援することは大変重要なことです。スポーツ界が率先してそのような機会を子どもに提供していくことは、社会貢献としてとても重要といえます。（つづく）

吉田良治さんプロフィール

1962年生まれ。1998年にワシントン大学へアメリカンフットボールコーチ留学。2000年リーグ制覇、2001年ローズボウルに出場し、ローズボウル制覇に貢献。国家レベルのリーダーシップ教育に貢献した、ランブライト元ワシントン大学ヘッドコーチよりリーダーシップ教育を学ぶ。
全米の大学で人格形成プログラム普及に貢献した、ライス元ジョージア工科大学体育局長よりライフスキル教育を学ぶ。

吉田良治さんBlog
<http://ameblo.jp/outside-the-box/>